

共生

奈良県生協連

2005年1月

NO.55

万葉のいぶきを求めてー (20)



三輪の^{ひはら} 檜原は
ゆく川の^ゆ 過ぎにし人の^{たお} 手折らねば うらぶれ立てり
かきのもとの ひとまる
柿本人麻

恋人を亡くし、傷心の人麿が、かつてその人とここに来て檜の杖を手折って過ごした思い出にひたりながら、「川の流れのように、あの人は行ってしまったよ。私の心を察してか、三輪の檜原までしょんぼりしているよ」とうたったこの地は、山の辺の道・巻向川のほとりにある。檜原社のあたりの赤松林のなかに古ぼけた石灯籠が二基立っているだけで崇神天皇の時に天照大神の霊を宮中から移して祭ったといわれる笠縫邑の伝承地ともなっているが定かではない。

今日の檜原は檜の木は数珠を数えるのみですが、当時は檜の林であったのでしょうか。今では春には桃の花、秋にはみかんや柿の実がうれ、ハイカーたちで賑わうこの地もシーズンオフのこの日は静寂そのものでした。「うらぶれ立てり」の感慨に浸っていた時、忽然と現れた女性の姿も、またこの静寂の中に溶けこんでいくような檜原の昼下がりでした。

新年のご挨拶

奈良県生活協同組合連合会 会長理事 逸見 啓

新年明けましておめでとうございます。

会員生協の組合員、役職員、そして奈良県の生協運動の活動と事業にご協力いただいている皆さまには、昨年からのいろいろの「災」を振り返りつつ高まる思いを込め“今年こそ”を願って新春を迎えられたことと思います。とくに、多くの台風による風水害や新潟県中越地震で思いもよらない被害をうけられた方々には、心からお見舞い申し上げますとともに復興に向けた力強い歩みをお祈りしております。



現在は、人類が持続可能な社会に転換すべき大転換の時代ですが、イラクや中東に代表される戦争、北朝鮮をめぐる状況の緊迫化、核開発・核兵器をめぐる危機的状況、地球環境問題、飢餓・貧困問題などの不安が続出し、人間社会の地獄行きへの道ではないかと危惧されています。国内でも、経済状況は景気回復に薄日がさしてきたとはいえ、私たちのくらしは依然として不透明な状態が続き、そう簡単には改善される見通しはありません。また、本県で発生した小1女児誘拐殺害事件など連日目を覆いたくなるような事件の報道は日本社会の歪みを感じざるを得ません。金融不安、雇用不安、国家財政・地方財政の破綻不安、年金財政の危機的状況、経営者の倫理観・コンプライアンス問題、国民保護に課題を残す有事関連法や憲法9条を改める動き、こども、高齢者、女性への暴力の拡大など、まさに多重不安で心配の絶えないことです。

私たちの生協運動と事業は、かかるくらしと生活の多重不安の増大のうえに、流通革命の旗手といわれたダイエーの産業再生機構入りに示されるように流通情勢はますます競争が進み、厳しい流れが強まっています。組合員の声を中心に運動と事業の改革・再構築を進め、今こそ協同と助け合いの生協の出番を創造しなければなりません。大学生協、労済生協、地域生協とそれぞれ存在基盤を異にする県下の8生協(組合員約27万人)の叡智と力を結集し、これを大きな力にし国民生活、県民生活の不安をやわらげるとともに、会員生協、組合員心をつなげてくらしの安心・安全のために努力をしていきたいと思ひます。大学部会の設置と活動の前進、奈良高専の先進的な取り組みによる全国高専での生協設立運動や今回の台風、地震被害で示された会員生協のさまざまな支援行動は、生協の志の高さと運動の拡がりを示しものとなっています。

さて、私たちが数年にわたって取り組んできました食品安全確保の社会システムの確立を求める運動は、「食品安全基本法」「改正食品衛生法」の成立となって実を結びました。奈良県でも県議会、県関係者、JAならけんなどのご協力のもとに、実効性のある施策充実に向けて動き出しました。また、消費者を取り巻く環境が複雑化するとともに、企業の不祥事、食品の不当表示、悪徳商法、多重債務など消費者にとって深刻な問題が発生してきていることを背景に、昨年5月わが国の消費者政策のあり方に大きなインパクトを与える「消費者基本法」と「公益通報者保護法」が成立しました。これに基づいて、奈良県でも消費生活条例の改定の準備をされていますが、県生協連としても消費者政策の充実・強化をめざしてその役割を果たしていきたいと思ひます。

極めて厳しい経済的・社会的状況の下とはいえ、国民一人ひとりが、これからのくらしに明るい希望の灯が感じられる年でありますようにと、心から祈らずにはおられません。本年も協同と助け合いの輪を奈良県のすみずみにまで広げ、くらしや食の安心・安全、環境、福祉、平和の活動に真摯に精進してまいりたいと思ひます。会員生協の新たなる発展の年となりますようお祈りしますとともに、さらなる関係者の皆さまのご協力、ご支援を賜りますよう、年頭に当たりお願いし新年のあいさつとさせていただきます。

年頭のご挨拶

奈良県知事 柿本善也

奈良県の消費生活協同組合員、並びに、関係者の皆様、あけましておめでとうございます。

平成十七年の年頭に当たり、まず、私たちの奈良県の更なる繁栄と皆様のご健勝・ご多幸を心からお祈り申し上げます。

さて、昨年は、過去最多を記録した台風の上陸、新潟県中越地震、紀伊半島南東沖地震の発生など、多くの災害に見舞われた年でした。奈良県としても、「地域防災計画」を改訂するなど、引き続き安全・安心の奈良県づくりを目指した防災対策の推進に努めてまいります。

食品の安全・安心に関しましては、生産から消費までの相互の理解と連携が重要であると考え、「奈良県食品安全・安心懇談会」を開催し、各界からご参加をいただき様々なご意見を賜りました。今度、食品の安全・安心の確保のための施策に役立ててまいります。

また、今日のような先行きの不透明な次期こそ、まず20年から30年先の目指すべき奈良県の未来像や目標を設定することが不可欠です。そこで、現在、県民の皆様から多様なご意見・ご提案を頂きながら「新長期ビジョン」の策定作業を進めており、新年度のできるだけ早い時期には、その考案をお示しできる予定です。

さらに、本県の特性を生かす重要施設として、平成22年（2010年）の平城京遷都1300年を契機に、日本の歴史文化を世界に発信し、国内外から訪れる多くの方々々に日本の歴史文化の深みを知ってもらうための記念事業があります。新年度には、関西の経済界をはじめ、多くの方々の参画を得て、「歴史文化の祭典」の実行組織を立ち上げます。

福祉・医療の分野では、障害があっても地域の中で自分らしく暮らしていける社会を目指して「奈良県障害者長期計画」を今春改訂いたします。また、効率的な診療機能を確保するとともに、精神科救急医療システム基幹受け入れ施設となる「(仮称)精神医療総合センター」の整備に着手します。

このほか、かねてより整備を進めてまいりました「(仮称)奈良県立図書館」は、総合的な情報拠点として、秋頃に開館する運びとなっています。

一方、地方の行財政運営の自主性・自立性を高めるため、三位一体の改革が進められていますが、地方分権の推進に資する「真の三位一体改革」となるよう、国への働きかけを今後も強力に行ってまいります。

引き続き「県民の信頼とふれあい」を最優先して、開かれた、わかりやすい県政を進めていきたいと考えていますので、一層のご理解をお願いいたします。

最後に、奈良県生活協同組合連合会、並びに、各生活協同組合のますますの発展を祈念申し上げて、新年のあいさつといたします。



| | | | | | |
|--------|-------|----------|-------|----------|-----|
| 新年あいさつ | 2・3 | 生協大会関連 | 4 | 協同・くらしの輪 | 5・6 |
| 連帯・友好 | 7・8・9 | 災害ボランティア | 10・11 | | |

奈良県生協大会が開催されました!

「どうなる年金、どうするライフプラン」をテーマに04年10月30日奈良県婦人会館にて 第15回奈良県生協大会が開催されました。会員生協組合員及び一般参加含め79名が参加しました。県の金融広報委員会の後援で県金融広報アドバイザー・CFP横林清子氏を、講師派遣いただき、年金法改正と連動した年金問題とライフプランについて基調講演をいただきました。後半年代別代表による「私のライフプラン」をテーマにリレートークを開催。各年代のライフプランをベースに参加者自らが自分のライフプランについて考える機会に繋がり、盛況のうちに大会を無事終了することが出来ました。

奈良県生協大会 奈良県生活協同組合連合会



逸見県連会長あいさつ



食品生活安全課 峯瀬課長

● はじめに、県連逸見会長より開催に当たっての挨拶があり、来賓を代表して健康安全局食品・生活安全課 峯瀬課長様よりご挨拶をいただきました。また、ご来賓として、食品・生活安全課 田中主査、奈良県農業協同組合中央会 辻専務理事、奈良YMCA 藤井所長、日生協関西地連 元山氏の各氏にご臨席賜り、その他多くの祝電メッセージを友誼団体はじめ各府県連等からいただきました。

基調講演「年金とライフプランを考える」 横林清子氏 (県金融広報アドバイザー・CFP)



平成16年年金改正のポイント・公的年金制度の仕組みや年金制度の要点等年金の基礎知識について、ご説明をいただきました。合わせて、ライフプランを各自が作成する意味と年代別の作成上のポイントと留意点について、ご講演いただきました。参加者からは、まだまだ専門的なことば等、分かりにくいのが年金と言う印象がありましたが、お話を聞いてちょっと理解が進んだ、自分のことなので、勉強する必要がある等の感想がありました。

リレートーク開催 — 身近な事例に会場参加者自身のプランを考えるきっかけに —

「私のライフプラン」をテーマに20代学生から定年前夫婦の各年代別計4名のパネリストによる、リレートークを開催。自身の「ライフプラン」について発表いただき、横林先生から各年代別の「ライフプラン」の考え方についてアドバイスいただきました。会場参加者にとっては短期長期に渡る「ライフプラン」のイメージが出来たと好評でした。

● 最後に、大会アピールに加え、台風・災害対策支援への緊急呼びかけを行い、ボランティア及び支援カンパへの協力を要請、西山副会長の閉会挨拶を持って無事終了しました。

大会終了後、懇親会が開催されました

懇親会の中で、県連会長賞授賞式を行い、各受賞サークルより活動の状況についてコメントをいただき、交流を深めることが出来ました。また、翌日、京都災害ボランティアとして地域生協及び大学生協から有志を代表として派遣することが報告されました。激励のことばと募金協力があり、短時間でしたが全体で2万円を超える善意の募金が集まりました。

「04年度 会長賞受賞サークル名」

「新入生を祝い隊」(奈良県立大生協) 「わいわい」(ならコープ・福祉サークル)
「平和の会」(ならコープ) 「学生委員会」(大阪樟蔭女子大生協)
「環境委員会」(コープ自然派奈良) が受賞。

おめでとうございます。



リレートーク



大会アピール
労済生協中川氏



西山副会長あいさつ

広がる協同・くらしの輪

9月26日 あすなら祭が開催されました



企画 ばさら祭り



上田清郡山市長

大和郡山市宮堂にある「特別養護老人ホーム あすなら苑」にて標記の催しが開催されました。晴天にめぐまれ汗ばむ陽気の中、多彩な催しが取組まれ、入居者を含め多くの参加者で賑わい、交流を深めました。行政から、上田清郡山市長もお越しいただきました。

9月27日 第一回「消費者問題研究会」(仮)が開催されました



あすなら苑にて開催。改正「消費者基本法」制定に伴う県条例改正の動きがあり、そこへの消費者の意見反映と横断的なネットワーク作りを目的に生協連の呼びかけで第一回研究会を開催しました。

出席団体は、相談員連絡会、生活学校、地婦連、消費者ネットワーク、コープ自然派奈良、ならコープで、県食品・生活安全課、弁護士会からも出席いただきました。初回内容として、現状認識の共有化を目標に、条例の持つ機能と役割について、消費者関連法の旧法と新法及び条例との相関性について各専門分野から報告を頂き、意見交換を通じて認識を深めるとともに、各団体の交流をしました。今後、当面学習会を中心に相互学習を深めることを確認するとともに、次回開催 12月3日(金) 第二回開催を確認しました。

10月9日 「生協シンポ」が開催されました (ならコープ主催)

県文化会館小ホールで標記のシンポジウムがならコープ 30周年企画として労理共催で開催され、パネリストとして、県連逸見会長と仲宗根専務理事が出席。ならコープ 30年の活動の歴史の変遷を学び、次世代へ期待することについてゲーム形式で深められました。



10月12日 県の衛生検査所(と畜場)にて懇談を行いました



奈良県内でのBSE陽性牛発生に関連して、と畜場及び衛生監査所の現状把握を目的に、ならコープ商品戦略担当坂本仁・冲山氏とともに3名で訪問。と畜状況の概略説明を受けるとともに、BSE検査及びピッシング・除去作業の状況について説明を受け、現状と実態がよく理解でき、今後の安全性確保に向けた運動の組み立てに役立つ中身となりました。ちなみに、奈良県における全頭検査については、当面継続の方向です。

10月16～17日 なら食と農(みのり)のフェスティバルが開催されました

実行委員会主催によるなら食と農(みのり)の県民会議設立に伴うアピールイベントとして、2日間に渡って県競輪場にて開催された。イベントでは、市町村及び農業・漁協・林業関係団体等が80の各ブースで出店。特産品紹介、運動アピールを行い、多くの市民の参加があり、賑わった。また、記念講演では、食生活ジャーナリスト岸朝子氏が「おいしく食べて健康に」をテーマに講演、家庭での食文化の伝承等問題提起を行い、参加者の共感を深めました。



11月18日 奈良農政事務所主催 消費者団体懇談会が開催されました

9月に奈良県でもBSE牛が発見されましたが、その報告も含め畜産食品の安全・安心の取り組みを農政事務所、県食品衛生検査所、酪農協同組合から報告されました。5つの消費者団体、3つの畜産関係の事業者団体と県・市の行政関係者が出席し、意見交換をしました。

11月18～19日 全国消費者大会が開催されました

2日間で述べ1000人が参加。6つの分科会が開催され、課題別で意見交換が行なわれました。県連事務局は「消費者課題」「平和の課題」の分科会に参加。いずれも、情勢を反映して参加者が多く、関心の高さを感じました。全体会では、先進的な取り組み団体の報告交流と3つの大会アピールが確認されました。



消費者課題分科会



平和分科会 天木直人氏講演

11月23日 「奈良ツアー」が実施されました（大学部会主催）



当日45名が参加。（集約時60名弱のところドタキャンで減）。内訳として、各県内大学生協（教育大・県立大・樟蔭女子大中心に）と地域センター及び京都・滋賀の大学生協の学生が集まりました。

参加者アンケートでは奈良を再認識できた等おおむね評価いただいた中身になりました。また、県を越えて大学生協の交流が深まり、各大学の活性化と

合わせて、今後につながる取組みとなりました。終了後、教育大生協の協力を得て同食堂にて懇親会を開催、さらに交流が深まりました。



11月26日 県連理事会と行政との合同会議が開催されました

定例理事会と同時開催で、県食品・生活安全課より峯瀬課長はじめ加藤課長補佐、田中主査におこしいただき、先に提出していた「05年度行政要望書」の各項目ごとに回答をいただき、意見交換を行いました。

11月27～28日 災害ボランティアコーディネーター養成講座が開講されました



昨年に続き今回で2回目の開催となり、各ボランティア関連団体及び個人39名の参加がありました。有事に際して、駆けつけるボランティアの受け入れ、仕事の配分調整を行う組織とコーディネーターが必要になるため、ノウハウを持った人材の養成を目的に開催されました。1日目基調講演として、渥美阪大助教授（心理学）より自らの経験を踏まえ、ボランティアの心得について提起があり、2日目矢守京大助教授による「防災ゲーム」を通じてコーディネーターとしての判断力について実践研修が行われ、大変参考になりました。コーディネーターを担う場合の判断力含めた責任の重さを感じるとともに、担える人材の育成と言う点では、繰り返しの訓練が今後も必要であると感じました。合わせて、ネット・ワーク作りも大きな課題として見ておく必要があると思われます。

11月30日 食品のリスクコミュニケーションが開催されました（内閣府主催）

食品安全委員会のBSE対策中間とりまとめに関する意見交換会が商工会議所ホールで開催され、ならコープ16名（理事長・副理事長含む）、県連2名の計18名が参加。ならコープ瀧川理事長、清水常任理事、県連仲宗根専務が意見を述べた。今後、さらに消費者の意思表示は重要であるとともに、水際での排除と言う点で、処理方法の深厚と徹底を一方で求めてゆく必要があります。

つながる連帯・友好の輪

ならコープ

新年あけましておめでとうございます。昨年、ならコープは創立 30 周年の年であり、さまざまな記念企画や記念セールに旺盛に取り組んできました。「今日より もっといい明日」とのスローガンは、景況厳しい中ではありますが、30 周年を節目にして着実に歩をすすめていこうとの思いを込めたものでした。さて、2005 年度は、組合員・役職員が一体となって取り組んだ 30 周年企画をバネにして、新しい一歩を踏み出す年です。昨年 7 月に県民の皆さんに宣言した“六つの約束”を果たすことが「リ・コーペラティブ(再創生)」をすすめることになり、ひいてはならコープの事業改革につながってゆくものと考えます。事業活動では、食品小売業として ISO9001 の認証を得て、商品の品質はさることながら経営の品質向上に取り組めます。また、昨年出店した二つのお店を、地域の組合員から愛され、その地域になくはならない存在となるよう、いっそう組合員の声に耳を傾けながら業務改革、売場改善をすすめていきます。組合員活動では被爆 60 周年の取り組みを県生協連とともにすすめ、今こそ平和の尊さをアピールしていきたいと考えています。環境の取り組みでは 2 月に京都議定書が発効されることから、昨年以上に環境活動に取り組んでいくことになります。引き続き奈良県は量販店出店が控えており、事業活動を取り巻く環境は厳しさを増していきませんが、「組合員とともに」を合言葉に“もっといい明日”にしたいと思います。皆様のご協力を心よりお願いいたします。



広報課 課長 青木 秀 俊

労 済 生 協

全労済奈良県本部では、社会貢献活動の一環としてホームヘルパー養成研修事業を実施していますが、本年も6月に開講式を行ないスクーリングや施設実習などを重ね 12 月 4 日(土)に無事全課程終了とともに修了式を行ない 29 名のホームヘルパーを輩出することができました。この講座は、1994 年から 3 級課程を、1997 年からは 2 級課程を実施し、今年度で通算して 10 回目となりました。いずれも仕事をしながらでも参加できる通信教育型で実施し、受講者からも好評を得ているところです。現在までに 2 級・3 級課程を実施して、延べ 333 名のヘルパーを輩出することができました。今後とも、全労済運動へのご理解と社会貢献活動への参画へのご協力の程よろしくおねがいたします。事業推進部 課長 中川 修 三

コープ自然派奈良

昨年 10 月、事務所、配送センターを橿原市から大和郡山市に移転し、コープ自然派奈良は新たなスタートをきりました。そして迎える 2005 年は、中期計画策定に取り組めます。これからの自然派奈良について考え、目標に向かって邁進していく年となりそうです。そのためにも、設立から 3 年かけて育ってきた各委員会やテーマ活動を柱として、できるだけ多くの組合員さんの思いに応えられるよう、これまで以上に組合員のニーズに合った企画に取り組んでいきたいと考えています。具体的には、生産者を訪ねる産地見学会、環境委員会の幼稚園・小学校を中心とした紫外線対策の推進啓蒙活動、昨年講演会を実行した反遺伝子組み換え食品についての学習などの今まで行なってきた勉強会や交流会に加え、子育て世代の組合員を対象としたイベントや、組合員どうしのコミュニケーションを目的とした生協内機関紙に奈良の地域情報を織り込み充実を図っていくことなどを現在計画中です。

また、組合員さんに限らず、広く一般の方を対象とした自然派奈良の商品を知っていただくためのイベント、生協フェスタなど、組合員拡大につながるイベントも開催できれば、と思っています。いずれにしても、今までより一歩先に踏み出す記念の年となりそうです。コープ自然派奈良 中村 恭子

奈良女子大学生協

明けましておめでとうございます。奈良県生活協同組合連合会に集う生協・組合員の皆さん、2005年が良い年になりますように力を合わせて、頑張っていきたいと考えています。私どもの生協は、昨年に新入職員を採用し将来の優秀な生協職員として、育てて行こうとチャレンジしています。まだ、毎日がバタバタとして、自転車操業のような状況で走っています。今年は、全職員が2年目職員と共に成長し皆さんのお役に立てるようになることを願っています。

今年一年も、組合員の健康な食生活と快適な学生生活に貢献し、職員スタッフの働きやすい環境を作り、楽しく働ける職場をめざします。

専務 竹内 繁

奈良教育大学生協

新年あけましておめでとうございます。奈良教育大生協では例年通り年末から年始にかけては新入生用パンフの作成に奮闘しており、ゆったりとした気分になれないのが現状ですが、皆さん健やかな日々をお迎えの事と存じます。組合員にとって本当に喜ばれる事が前年に比較していくつ増す事が出来たのだろうかと振り返ってみるとはなはだ寂しいものがあります。学生組合員は新入生相談を推薦生からスタートし頑張って貰えましたし、夏祭の集客増も凄い結果で、奈良散策も凄い企画でした。これらは前年より大きく前進した内容といえます。反面、事業に於ける供給高はそんなに伸びておりません。われわれは一体何の仕事に勢力を費やしてきたのだろうか？疑問に思うところが多い状況です。前年見直した弁当価格も今では高いと言われてしています。その結果ではありませんが、生協での食事代をもっと減らしたい要望が根強くあります。それに、いくら応える事ができたのでしょうか？更に、購買部にはもっと営業時間を増やしてほしいとの要望もありますが、果たして営業に見合う集客が出来るのかという、これも疑問視したくなります。それは、クラブ参加者がどんどん減っている事、アルバイトに専念する人が多くなりつつある事からも伺えます。

大学生協は本来、設備等のある程度無償貸与されているのですから、もう少しコストダウンを目指す事が出来ると思いますが、営業日そのものが年間で200日程度しか本格稼動しないこと、職域であるが故の品揃えの片寄り等もあり、一般企業程コストダウン出来ないのが現状であり、ジレンマに陥っています。

このようなサイクルのなかでも新たな挑戦が必要と考えています。前年度は独法化元年でしたが、京大等でのローソンの学内参入等があり、又、生協としてもそれなりの負担をすべきという指摘をする大学も出てきており、大学から生協が福利厚生施設として大いに役立っているという信頼とそれなりの業績をあげなければ存続出来かねる事にも繋がっていくものと考えられます。奈良教にとって本年はシステム変更もあり、相当な投資をしなければならない年でもあります。この点からも基盤となる学生が明るく、元気な学生生活を送ってもらえ、大学からも生協が合って良かったと言ってもらえるように努力する事が必要です。勿論、生協で出来る事、大学にお願いする事等をきっちりとすみわけ、より魅力のある大学生協を目指さなければならないのは当然の事ですが、。更に、地域の方々と一体となっているような取組みに生協としても貢献する事が出来れば、更に大きな飛躍に繋がるものと考えています。すべてが空論では話になりませんので、今年も着実に、一步一步歩み続けたく存じますので、変わらぬ御支援、ご協力の程よろしく願いいたします。

専務 宮崎 浩三



「牛乳パックを使った紙すき実演講習」

奈良県立大学生協

今年の抱負は、設備を良くしていくことです。学生数の増加により現状の設備では対応しきれなくなったため、新しく改修ができればと思っています。学生が集う・憩える場所になってきた生協を設備的にも改善して、よりよりキャンパスライフを学生や教職員の皆さんが過ごせるような生協になればと思っています。また、課題は大学のカリキュラム変更にあわせた生協づくりです。これまで4時制限だった時間割が5時制限に変更になります。学生の動きや授業の組み方がまだ全然わかりませんので、未知の世界です。当面は動きを見ながらどんな生協ができればいいのかを、組合員と一緒に創っていくつもりです。



「○○焼きもどき」(お菓子) 開店

店長 崎 濱 誠

奈良高専生協

みなさま、明けましておめでとうございます。

奈良高専生協の2004年は、生協学生委員会の活動が例年になく活発になった1年となりました。いろいろな学習の場や訪問・交流に参加し、多くのことを学ぶことができました。特に、全国共済セミナーでは大きな刺激を受け、高専生にとって身近で深刻な問題である「自転車事故」をあらためて考えようと、『奈良高専自転車事故マップ』を作成しました。学校周辺の危険な箇所を写真や地図でまとめて掲示し、他の危険な場所や体験を記入してもらって更に詳しい情報を集めています。今後はこれをまとめて冊子にし、新入生へ配布しようと考えています。この『事故マップ』は、先生方にも大きな反響を呼んでいるようです。今年も組合員とともに、学びや交流の場への参加や生協らしい取り組みを旺盛に進め、より良く楽しい「奈良工業高専」作りに、少しでも貢献して行きたいと考えています。また、去年は2つの高等専門学校に生協が設立されました。今年もいくつかの高専で生協設立の動きがあります。今は僅か3つの高専生協ですが、高専生協ならではの交流や情報交換、取組みの共有を進め、全国の高専に生協設立の輪を広げて行きたいと考えています。本年もよろしく願い申し上げます。



「スーパーボールつり」

店長 林 伸 幸

大阪樟蔭女子大学生協

2005年3月には4年制大学の1期生が初めて関屋キャンパスから巣立とうとしています。事業的にも安定を見せてきていますが、再度組合員のお店として十分声が反映しているか？組合員自身が親しみを持って利用できる環境か？再点検をする時期になっていると思っています。また奈良部会も学生どうしの交流が盛んになり、大学の壁を超えての取組みがより充実する年にするようがんばりたいと思います。

店長 羽 賀 省 二



「戦争パネル展」

記：お伺いできた大学生協の学園祭の様態を写真掲載致しました。夫々工夫された中身で、盛り上がっていました。

『10.31 京都舞鶴災害ボランティア参加報告』

— 大変だったけれど、参加者の心の中にやさしさを残してくれる貴重な体験になりました —

今回8人で参加しましたが内学生5人の報告を掲載します



1回生 中谷志帆さん



災害ボランティアに参加したのは今回が2回目で、福井の災害ボランティアにも参加しました。私たちは、デイケアサービスセンターとそれに隣接した民家の掃除をお手伝いしまし

た。泥が積もっているということはなかったのですが、家財道具は泥まみれでした。自分の中で感じていたボランティアは、福井のときのように泥かき、土かきみたいな、力仕事っていうイメージが大きかったのですが、こういう小さなことでもボランティアであって、人の助けになっているのだと感じました。ただでさえ心に余裕がない時、精神的な疲労は大きいと思うので小さいことでも、助けや支えになれていると思うとうれしかったです。見逃しそうな部分、細かいところまで気付くって言うのも、やっぱりボランティアの力ってすごいって思いました。今回、現地ボランティア支援要請を聞いて、少しでも誰かの役に立てたらと言う思いがありましたし、そういう気持ちがある人は自分だけじゃなく、たくさんいて、実際にボランティアに行くとか、義援金を送るとか、お役立ちが来ていることは、すごいことだと思いました。今年、台風の上陸が多くなったことは、温暖化の影響とも聞いて、もっと環境へも目を向けていかないといけないと思いました。また、自分ができることは、やっていこうと思いました。

1回生 堀 早希さん

作業は他のボランティアの方々もいて、30人程で行われ、バケツやデッキブラシなどはボランティアセンターから配られたので、スムーズに行われました。家の中は、床板などもなく、到底人はまだ住むことはできない状態でした。この家の修理費は県からは出ず、個人で入っている保険と、あとは募金がどれだけ集まるかによるそうです。私は色々な作業をしながら、もし自分の住んでいる家がこのような状態になってしまったらということを考えていました。川が氾濫と降り続く雨によりどんどん水かさが増し、あっという間に自分の家が水に沈んでしまったら、自分は何もできないし、水が引くのを待つしかなくなってしまったら…私ならもう全てがいやになり、生きる気力もなくなってしまうだろうな…そして水がどんどん襲ってくる恐怖心に当分は苦しむのだろうなと思いました。私はあまりニュースを見ていなかったたのでそのときの状況は話を聞いての自分の想像でしか分かりませんが、家の2階まで水に浸かったというのは本当に想像の域を越えていて、ただただ信じられません。本当にそういう被害を受けたのだということを見せつけられました。



左から江頭さん、堀さん、中谷さん

作業が一通り終わりボランティアセンターに戻ると、「お疲れ様でした。」と温かいお茶をいただきました。わたしは今までこのような災害ボランティアというのはしたことがなかったのですが、今回のボランティアの方々自主的に集まっただけあり、全員もくもくと作業を進んでしていたし、嫌そうにやっている人もいませんでしたし、そういう『心のこもった助け合い』というのはすばらしいものだなと実感しました。一刻も早く、舞鶴だけでなく、被害を受けた人たちの暮らしがまた元のように戻れば良いなと思います。

1回生 江頭優記さん

私は以前には、福井の水害ボランティアに行かせてもらったのですが、今回は、道路はまだコンクリートが見えていたし、家屋とかも結構整然として見えたので、初め見た感じは、そうひどくなかったの

かなと正直思いました。でも、やはりよく見ると、周りに田畑が多かったのですが、その中の作物の葉にはたくさんの泥が残っていることに気がきました。普通ありえない高さのところの壁にたくさんの草などがついていて、水の高さがあんなどころまできたのかと、もう、ただただ本当に驚くばかりでした。泥を洗い流すだけだけれど、何度かやらないと完全に泥は落ちないし、泥は落ちてでも清潔とは限らないし、他にもやるべきことがたくさんある中で、こうして小さなことから少しずつやるしかなくて、きっとはがゆい、やるせない気持ちを抱えながら、耐えて毎日頑張ってるんだろうなと作業するうちに思いました。本当に少しずつだけど、きれいになっていく物や箇所が増えていって、それが見えてくると私自身は「よし！次は何をしよう」とやる気が出た気がします。だから、現地の人も今現実に自分の生活が泥に囲まれたものであって、暗い気持ちで埋もれてしまうだろうけど、少しずつ作業していくことで、「いつかは明るく楽しく生活していたときが戻ってくるんだ、よしっ頑張ろう」とやる気がでてくれたらいいと思うし、そういう希望や活力をもってもらえるように、私たちボランティア側もお手伝いして行こうと思いました。

1回生 岡本拓郎さん

これまで老人介護、障害者施設でのボランティアの経験はあったが、今回災害ボランティアは初めての経験でした。現地に着いてまず目に飛び込んできたのが水害によってなぎ倒された木々。民家のある地域へ行くとさらに台風23号のつめ跡がまざまざと残っていて衝撃を受けた。私が支援した家は2階まで浸水、至るところ泥だらけで、天井もすべて引き剥がさなければならない悲惨な状況だった。1日そこで、天井をはがす作業を手伝った。

今回のボランティアで感じたことがいくつかあります。一つは、人間は支え合って生きているということ。自分と同じく、少しでも力になれることはないかと活動している人が多くいたことは本当に素敵なことだと感じました。もし世界のすべての人々が、こういった同じ気持ちになれたとしたら、争いという言葉は消えてなくなると思いました。もう一つは、環境破壊について。台風の多さの原因の一つには、地球温暖化が挙げられている。このまま人間の勝手な環境破壊が進めば、同じように人間も破壊されてしまうことは間違いないと私は思う。このボランティアを通して、平和と環境について考えることができ本当によかったと思う。やっぱり一番うれしかったのは被災者の方の「ありがとう」という言葉かな。少しでも力になれたこと、自分たちの力で被災者の方が少しでも笑顔になってくれたこと。それが1番。そういった小さなことから平和、環境といった大きな問題のことまで考えることのできた大きな体験となった。今の思いを胸にしまうのではなく、具体的な活動で今後につなげたい。うちの学生にも発信していく必要があると思った。



手前右 岡本君、後方左 桑原君、後方右 ならコープ窪田氏

3回生 桑原寛樹さん

私はこれまで学校の行事を除いて自主的なボランティア活動を行ったことがなく、今回が初の災害ボランティアとなりました。河川の氾濫により、水没したバスの上に登って救助を待つ乗客などの映像が、テレビで連日大きく取りあげられ、私も注目していた為、被害の状況はある程度理解していました。しかし、百聞は一見に如かずと言うように、実際行って自然の恐ろしさを目の当りにしました。家屋は骨組や壁を除き、ほとんどが使い物にならなくなっており、復旧にはまだまだ時間がかかりそうです。行政側の対応は、災害からかなり日にちがたっていた事もあり、私が見た所では滞り無く行われていたと思われます。担当地区番号と名前・血液型を書いたシールを服に貼らされたり、軍手・スコップ・防塵マスク等の作業道具も支給され、作業終了後アンケートの記入をお願いされるなど準備のよさに感心しました。今回の災害ボランティアを通じて、いくら上流にダムを建設し、堤防を築き河川を整えても自然の力には無力なことがよく分かりました。最近日本のあちこちで地震が相次ぎ、静岡付近での大地震が近いと言われています。少し前にも奈良で地震が発生しました。災害は忘れていても、覚えていてもやってきます。日本全土で支えあって災害に対応出来るようボランティア活動を通じて、地域間のネットワークをつくり、災害時には助け合っていけたらよいと思います。

県連日誌・お知らせ



| 10月 | 11月 | 12月 |
|-------------------|---------------------|-----------------------|
| 8日 近畿地区府県連協議会 | 4～5日 県連強化セミナー | 3日 消費者問題研究会 |
| 12日 奈良県衛生検査所懇談 | 5日 BSEを考えるシンポ | 8日 県連責任者会議 |
| 12日～13日 県指導検査(高専) | 8日 地連府県連協議会 | 13日 近畿農政局事前会議 |
| 14日 男女共同参画学習会 | 18日 消費者団体懇談会(農政事務所) | 14日 自衛隊イラク派遣延長への抗議文発送 |
| 21日 消費者基本計画説明会 | 18～19日 全国消費者大会 | 17日 個人情報保護法講演会 |
| 30日 第15回奈良県生協大会 | 23日 「奈良ツアー」 | 18日 ピースリレー責任者会議 |
| 31日 舞鶴 台風災害ボランティア | 27日～28日 災害VC養成講座 | 21日 消費者団体訴権学習会 |
| | 30日 食品のリスクコミュニケーション | |

「食育フォーラム」開催のご案内

ホテルでランチバイキングしませんか?



| | |
|------------|--------------------------------|
| 日 時 | 2005年 1月26日(水) 10時から14時 |
| 場 所 | 奈良ロイヤルホテル |
| 内 容 | 午前「生産者と消費者の交流」 午後「ランチバイキング」 |

定 員：200人 (申込多数の場合は抽選の上当落を通知します)

参加費：500円

お 申 込：往復はがきに住所、氏名、電話番号、記入の上ならコープ組合員活動課
(〒630-8503 奈良市恋の窪1丁目2-2) までお送りください。

1月15日(土)必着です。

主 催：ならコープ・共 催：奈良県生協連

お詫び

共生10月号において、「奈良農政事務所」の名称を部分的に誤って「奈良県農政事務所」と掲載致しました。関係各位にはお詫び申し上げますとともに謹んで訂正いたします。

編集後記

昨年の出来事・話題 ―― 〇「社会編」イラクへの派兵、オレオレ詐欺に消費者基本法成立、親や子の殺害事件、プロ野球大騒動 ―― 〇「自然編」猛暑、巨大台風の連続上陸、クマ出没、新潟中越地震 ―― 〇「輝いた人編」ヨン様(ファンの方かな?)、金メダリスト、イチロー ―― 地震は不可抗力としても、あとは人間様の為せる結果。いい事の少なかった昨年でも、個人の為せる業で周りを幸せにしたり、励ましたり、勇気づけた事はあったんですね。今年はずいぶんいい事探しをしましょう。いい事は一人一人が生み出すものですしね。(迪)

明けましておめでとうございます。05年、政治の世界では三位一体の改革の動きがいよいよ具体的に現れてきそうです。昨年、生協大会で、ライフプランについて考えましたが、定額減税の減率含め生活への影響が気になります。今年も良い年でありますように願っています。(正)

奈良県生活協同組合連合会

〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2 ならコープ気付

TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043